

① キアシシギは、どこで冬を越しますか。夏ごろ、繁殖するためどこにわたりますか。

冬

夏ごろ

② 中継地の日本列島で、どれくらいの期間滞在しますか？

③ 観察用標識を取り付けるのは、なぜですか？次の文の（ ）に適切な言葉を書き入れなさい。

標識は、（ ）（ら）が（ ）（ら）の研究のために取り付ける。放鳥地
 域によって（ ）（や）（ ）を変えており、渡り（ ）（や）（ ）状況
 などの情報収集に役立つ。

④ この記事を読んだ感想を書きましょう。

学びポイント！

ほかの渡り鳥についても調べてみよう。

観察用標識付け飛来

鳥アシシギ
 渡りキア

高砂の加古川河口で確認

高砂市高砂町の加古川河口付近で、渡り鳥のキアシシギが、観察情報を集める標識のレッグフラッグと金属リングを装着した状態で見つかった。「かがわ鳥と自然の会」の田中次夫代表(67)は「厳しい自然条件下で渡ってきている。標識が付いた渡り鳥の発見は珍しい」と驚いている。

旅鳥のキアシシギは温暖なオーストラリアや東南アジアで越冬し、夏ごろに繁殖地のシベリアやアラスカに渡る。数千羽の長旅となるため、例年4～5月に中継地の日本列島で1週間ほど滞在し、エネルギーを補給して体力を蓄える。

標識は、鳥類研究者らが保護研究のために取り付ける。放鳥地によって色や位置を変えており、渡りルートや渡来状況などの情報収集に役立つ。今回の1羽は、オーストラリア



カニをついばむキアシシギ。右脚にレッグフラッグ、左脚に金属リングが付いている＝高砂市高砂町の加古川河口

ア北東部のクイーンズランド州から飛来したとみられるという。同川河口の干潟付近は動植物が生息しやすい環境で、キアシシギが小型のカニなどの餌をついばむ様子が見られた。田中代表は「今回の発見は干潟の環境保護に向けて貴重な資